

1. 科目名 (単位数)	保育内容 (環境) (2 単位)	3. 科目番号	SJMP3133
2. 授業担当教員	荒木 由紀子		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	他の保育内容と同時期に学ぶ。実習前に学ぶことが望ましい。		
7. 講義概要	子どもが健やかに成長し、その活動がより豊かに展開されるための発達の援助である「教育」を構成する5領域のひとつである「環境」のねらいと内容を理解し、子どもを取り巻く環境について具体的な保育内容を検討しつつ学びを深めることで、総合的に保育を展開していくために必要となる理論や知識を習得する。また、身近な環境とのかかわりから導かれる子どもの育ちを理解した上で、好奇心や探究心を持って子どもが自ら活動に取り組むことのできるような環境の設定方法について学ぶ。演習形式で学ぶことにより、本講義で習得した理論や知識への理解をさらに深め、実際の保育現場での指導につながる実践力を養う		
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・領域「環境」について学び、養護と教育にかかわる保育の内容が、それぞれに関連性を持ち、総合的に保育を展開していくための知識、技術、判断力を習得する。 ・子どもの発達を領域「環境」の観点から捉え、子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学び、実践できるようになる。 ・子どもと子どもを取り巻く身近な環境との相互作用から導かれる子どもの育ちを考察し、保育計画に基づいて環境を具体的に設定することができる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事前学習に示された学習課題に取り組んで、授業に出席すること。 2. 課題 (事後学習) をまとめること。 3. レポートは指定された形式での提出とする。 		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 小田 豊・湯川秀樹編著『保育内容 環境』北大路書房 2019 年 【参考資料】 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館 幼稚園教育要領(平成 29 年 3 月告示 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 <ol style="list-style-type: none"> 1) 領域「環境」について学び、養護と教育にかかわる保育の内容が、それぞれに関連性を持ち、総合的に保育を展開していくための知識、技術、判断力を習得することができた。 2) 子どもの発達を領域「環境」の観点から捉え、子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学び、実践できた。 3) 子どもと子どもを取り巻く身近な環境との相互作用から導かれる子どもの育ちを考察し、保育計画に基づいて環境を具体的に設定する方法を理解することができた。 ○評定の方法 上記の学習目標に基づいた規準を以下の方法で総合的に評価する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 出席, 参加, 発表等から授業に取り組む姿勢 「授業態度」 (20%) 2. 各授業内の課題, 中間レポート等 「小レポート」 (20%) 3. 学習内容を総括する課題 「期末レポート」 (60%) 		
12. 受講生へのメッセージ	保育者として、自分自身が人的環境であるということを自覚して下さい。幼児は様々な環境に興味関心を持ちながら、あそびを展開していきます。子どもの思いに寄り添い、共感できる人であって欲しいと思います。そのためには子どもの目線に立ち、自身の興味関心をより広げて欲しいと思います。その一つとして、個人で「植物を種から育てる」ことを行います。また、個人発表の機会や意見交換の時間を多く取りますので、積極的な参加を望みます。		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (授業概要の説明と進め方) 「環境を通して行う保育」の意味①	事前学習	教科書の目次・第 1 章・第 1 節を読み、学習内容の概観を把握する。
		事後学習	子どもの発達にふさわしい環境について自分の考えをまとめる。
第 2 回	環境を通して行う保育の意味② 領域の意味、子どもの育ちと領域「環境」 非認知能力を育む環境について	事前学習	幼稚園教育要領、教科書第 2 章・第 1 節を読み、要点をまとめる。
		事後学習	非認知能力を育むためにはどのような環境で何が必要かを考える。
第 3 回	子どもを取り巻く人的環境	事前学習	子どもが自ら環境に関わり、自発的に活動したくなるためには、何が必要かを考える。
		事後学習	子どもにとってふさわしい経験が積み重ねられるために、保育者に求められる視点について考える。
第 4 回	子どもの成長を促す物的環境 (3 歳未満児)	事前学習	各指針・要領の「環境」における 3 歳未満児のねらいや内容について読んでおく。
		事後学習	3 歳未満児の保育室の環境構成のポイントをふまえて、自分なりに構成する。
第 5 回	子どもの成長を促す物的環境 (3 歳以上児)	事前学習	各指針・要領の「環境」における 3 歳以上児のねらいや内容について読んでおく。

		事後学習	3歳以上児の保育室の環境構成のポイントをふまえ、自分なりに構成する。
第6回	～身近な植物への関わり～ 環境構成と子どものあそびや生活へのつながり を考える	事前学習	幼稚園教育要領の保育内容「環境」、教科書の第7章を読み、子どもをとりまく環境について理解する また関連する絵本等を用意しておく。
		事後学習	保育現場における自然環境の取り扱いについて、自分 なりの考えをまとめる。
第7回	～科学性の芽生え～ 環境構成と子どものあそびを考える	事前学習	科学性の芽生えとなるような環境や活動を考えて おく。また関連する絵本等を用意しておく。
		事後学習	保育現場における科学性の芽生えの取り扱いにつ いて、自分なりの考えをまとめる。
第8回	～身近な生き物（昆虫やさかな、飼育動物など） への関わりを考える～ 子どもと生き物の関係を考える	事前学習	身近な生き物をとおした経験や活動について考え てくる。また関連する絵本等を用意しておく。
		事後学習	子どもたちの活動場面から、さらにどのような展開 が予想されるか、生き物の命とその責任についても 考える。
第9回	～生活の中での数量や図形、文字や標識について 考える～	事前学習	教科書第8章を読み、数量、図形、文字、標識に対 する事例をまとめ、関連する絵本等を用意しておく。
		事後学習	さらに深い学びとなるための環境構成や働きかけ について考えをまとめる。
第10回	～生活の中での行事や文化、情報機器について考 える～	事前学習	教科書第8章・第5節、第9章を読み、自分が幼児 期に経験した事を記述しておく
		事後学習	保育現場における行事や文化、情報機器の取り扱 いについて、自分なりの考えをまとめる。
第11回	指導計画と保育施設における安全管理 環境をとおして行うための指導計画と設備や環 境、保健的環境や安全の確保について考える	事前学習	教科書第6章・第2節、第11章を読み、指導計画 と保育施設における安全管理、環境をとおして行 うための指導計画と設備や環境、保健的環境や安全 の確保について考える
		事後学習	安全管理についての、具体的な取り組みと、場面ご とのチェック項目について考える。
第12回	保育現場における事例をあげ、 その保育展開と学びについて発表をする	事前学習	今までの講義内容を踏まえ、対象年齢や場面、展開 について考える。子どもの気付きから活動の展開ま で、子どもは、どんなことが楽しく、どんなことが あればもっとおもしろくなると思うのか。その経験 をとおして、何を学んでいるのか、環境構成や配慮 事項なども踏まえた、プレゼンができるよう発表の 準備をする
		事後学習	発表者は質疑応答を受け、発表内容を見直し、不足 部分や改善点について考えてみる。発表以外の者は 発表の良い点を学び、自分の発表時に活かすよう にする。
第13回	保育現場における事例をあげ、 その保育展開と学びについて発表する	事前学習	第12回 事前学習と同様
		事後学習	発表者は質疑応答を受け、発表内容を見直し、不足 部分や改善点について考えてみる。発表以外の者は 発表の良い点を学び、自分の発表時に活かすよう にする。
第14回	保育現場における事例をあげ、 その保育展開と学びについて発表する	事前学習	第12回事前学習と同様
		事後学習	発表者は質疑応答を受け、発表内容を見直し、不足 部分や改善点について考えてみる。発表以外の者は 発表の良い点を学び、自分の発表時に活かすよう にする。
第15回	道徳性の芽生えを培う環境及び小学校との連携を 考える 子どもたちの主体的な活動を促し、 豊かな経験が積み重ねられる保育内容『環境』の 実践内容を指導計画としてまとめとレポート	事前学習	教科書第10章を読み「環境」からみた道徳性の芽 生えを考える。また小学校と保育施設との環境の違 いについて、具体的な場面や取り組みを考えてく る。これまでの学びを振り返り、子どもたちの育ち に必要な『環境』について、考えをまとめてくる。
		事後学習	具体的な場面における『環境』についてあげ、それ がどのように子どもの育ちとなるのかについて、説 明できるようにする保育内容『環境』と、子ども の育ちとの関係について、自分なりの考えをまと める。